

YAWARAGI NEWS

和

わねらぎ

発行所
 齋藤工務店
 山形市大字陣場町26
 TEL 0236(81)7558
 FAX 0236(81)7559
 発行責任者
 齋藤恵美子

職人を目指す若人 必ずいることを信じよう

先日山形建築組合の総会があり、その後の講演会で「職人と手向」今後どうなるかの演題で、山形市高等職業専門学校の長の高橋三郎先生の講演がありました。

職人とは「自からの手で物を作る。素直で頑固でさぶがよい。一これに昔から職人の性格が今も引継がれて来ていると思われ。

今活躍している職人はほとんどが小学校・中学校卒業後に弟子入りして技術を身につけて職人として仕事をしている人達である。現在では高等専門学校と進学する人がほとんどで、中学卒業で弟子入りする職人は皆無に等しい。米國では四人に一人が大学卒か短大卒であるとのこと。日本はその根に近い将来に陥ると思われ。

また、借金と労働時間の問題で寸が今大工さんの一日の手間賃を一万

五千円とするとも一年間に二五〇日で三百七拾五万円となる。ボーナス及び退職金等一切なしで道具の材料も含み保障はないとする。今のサラリーマンの借金にくらべると相当低いことになる。今のサラリーマンの四五才前後の平均賃金はホーナス等を含めると年間四百五十万円前後といわれている。

また、労働時間は週休二日制の導入となると、二日八日となる。その差を正さなければ、職人から見たら、その見込みは、たろうかとの意見でありました。また、たくその通りと思われ。

職人を育てる為、今、職人育成企業等で独自で養成している様です。学校教育のあり方にも問題があるのでは、いかと思われ。今、小学校、中学校の教育が進学のみならず、職業教育のあり方、中身の充実、才能が本当に生かされるか、中途半

満人向に商って、その気が、自分なりの物を作り、その手放した時の喜び、職人が完成した時の味、思わぬ。

我社の自慢施工例 お客様より*



松本美英様邸



その様は職人をめぐる若人が必ず多勢いることを信じ、この山形から、お客様に喜ばれたい。社長の藤和明

新しい家

上山小学校二年 松本公貴

十五歳の家が新しくなりました。そこで、学校の作文にこんなことを書きました。

それは、「新しくな、アを削けると音がします。また、スイッチ一つで家が広がります。お父さん、お母さん、お兄さん、お姉さん、お友達、みんな、お揃いで、お祝いします。

が、この家の作り方はFP工法という方式で山形の村でたまにみられる。全館使った。お父さん、お母さん、お兄さん、お姉さん、お友達、みんな、お揃いで、お祝いします。



柔剣道場完成。

山形市五金井中学校

と書いたから、先生が「公費くんの家は、すてきだよ」といいました。松本公貴様の孫さんです。

